

令和七年度学力検査

A
国

語

(九時三十分～十時十五分、四十五分間)

問題用紙

注意

- 一、「開始」の合図^{あいず}があるまで開いてはいけません。
- 二、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 三、問題は、**1** から **5** までで、八ページにわたって印刷してあります。
なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に別紙1、裏に別紙2が印刷されています。
- 四、「開始」の合図で、解答用紙の決められた欄^{らん}に受検番号を書きなさい。
- 五、問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 六、「終了」^{しゅうりよう}の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。

1

次の①～⑧の文の傍線部分について、漢字は読みをひらがなで書き、ひらがなは漢字に直しなさい。(八点)

① 選手が記録に挑む。

② 友達が朗らかに笑う。

③ タブレット端末を貸与される。

④ 英語の詩を翻訳する。

⑤ すぐれた芸術にふれる。

⑥ 茶碗にご飯をもる。

⑦ 海は水産物のほうこだ。

⑧ 正しいじゅんじょで並ぶ。

2

別紙1の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十二点)

(一) 波線部分①～④のうち、品詞が他と異なるものを一つ選び、その番号を書きなさい。

(二) 傍線部分(1)「どんなことを考えているのか」とあるが、この部分は、いくつの文節に分けられるか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、二 イ、三 ウ、四 エ、五

(三) 傍線部分(2)「胸の中につかえていたものが何だったのかやつとわかったような気がしていた」とあるが、次の
 中につかえていたものが何だったのかについてまとめたものである。
 し、最初と最後の五字を書きなさい。(句読点も一字に数える。)

こころは、

ことが、胸の片隅に引っかけたが、それをだれにどう相談したらいいのか、

相談したところで、どうなるものなのかわからずに、ただもやもやとしていたことが胸の中につかえていた。

(四) 傍線部分③「自分が、堂島さんや洋太のために退部しようとするなんてばかっている」とあるが、ところが、自分が堂島さんや洋太のために野球部を退部しようとするのがばかっていると気づいたのは、どのようなことを思ったからか。「……と思ったから。」につながるように、本文中の言葉を使って五十字以上六十字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

(五) この文章で描かれているところの心情について説明したものとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、雨音先生に見つめられることで、美術部へ戻りたいという自分の気持ちををはっきりと意識するところの心情を描いている。

イ、雨音先生との会話を通して自問自答したことにより、野球部と美術部との間で気持ちが揺れ動くところの心情を描いている。

ウ、雨音先生の指示により考えを改めたことで、野球に夢中になっていた頃の気持ちを取り戻すところの心情を描いている。

エ、雨音先生の質問に答えることにより、野球に対する気持ちが整理され、大切なことに気づいていくところの心情を描いている。

別紙2の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十二点)

- (一) 傍線部分①「種子植物にとって受粉とは、他個体との交配を通じて種子をつくるのに不可欠な、とても大事なイベントです」とあるが、次の
 中は、種子植物が受粉により、他個体との交配を通じて種子をつくる目的についてまとめたものである。
 葉を、本文中から十二字で抜き出して書きなさい。(句読点も一字に数える。)

他個体との交配を経ずにつくられた子孫集団は絶滅のリスクが高いことから、種子植物が受粉により、
 他個体との交配を通じて種子をつくることは、
 ために行われることだと考えられている。

- (二) 傍線部分②「つくる」は動詞であるが、波線部分①④の動詞のうち、活用の種類が「つくる」と同じものを一つ選び、その番号を書きなさい。

- (三) 傍線部分③「さまざまな」の品詞名として最も適当なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、副詞 イ、連体詞 ウ、動詞 エ、形容詞 オ、形容動詞

- (四) 本文中の A、B、C に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、 A — 同種	B — 他種	C — 同種
イ、 A — 同種	B — 他種	C — 他種
ウ、 A — 他種	B — 同種	C — 同種
エ、 A — 他種	B — 同種	C — 他種

(五) 傍線部分(4)「植物の多様性が大きい場所では動物媒どうぶつばいのほうが有効である」とあるが、次の
きい場所では、風媒ふうばいよりも動物媒のほうが有効である理由について、筆者の考えをまとめたものである。
れる動物(訪花者)の性質にふれて、本文中の言葉を使って三十五字以上四十五字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

花を訪れる動物(訪花者)には

ことになるから。

の中は、送粉おんぽんにおいて、植物の多様性が大
に入る言葉を、花を訪

次のⅠは古文、Ⅱは漢文の書き下し文である。ⅠとⅡの文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(八点)

Ⅰ

孔子、道^{こうし}を行き給^{たま}ふに、七、八歳^{さい}ばかりの二人の童^{わらわ}、道^{みち}に値^あひぬ。共^く子^こに問^とひていはく、一人の童^{わらわ}のいはく、「日の始めて出^いづる時は日近^{ひぢか}し。日中^{ひちゅう}に至^{いた}りては日遠^{ひとほ}し」と。一人の童^{わらわ}のいはく、「日の始めて出^いづる時は日遠^{ひとほ}し。日中^{ひちゅう}に至^{いた}りては日近^{ひぢか}し」と。

太陽

真昼になると

湯の中に手を

入れたようだ

真昼になると

先の童^{また}、亦返^{また}していはく、「日の出^でづる時は熱^{あつ}くして、湯^{さく}を探^{たづ}るが如^{ごと}し。日中^{ひちゅう}に至^{いた}りぬれば涼^{すず}し」と。後の童^{また}、亦返^{また}していはく、

「日の出^でづる時は涼^{すず}し。日中^{ひちゅう}に至^{いた}りぬれば熱^{あつ}くして、湯^{さく}を探^{たづ}るが如^{ごと}し。豈^あに、日の出^でづる時は

①

く、日中^{ひちゅう}を

②

し

(1)

言うのだろうか

このように

判断を下すことができなかった

といはむや」と。如此^{かくのごと}く二人して争^{あら}ひて、問^とふといへども、孔子裁^さり給^{たま}ふ事能^{あた}はず。

(「今昔物語集」による。)

* 一部表記を改めたところがある。

Ⅱ

孔子東^{とう}に旅行^{りょこう}した。二人の子どもが、言^{こと}い争^{あら}つてゐるのを、理由^{りゆう}、我々^{われら}から、東方^{とうほう}に旅行^{りょこう}した。二人の子どもが、言^{こと}い争^{あら}つてゐるのを、理由^{りゆう}、我々^{われら}から、

(2)

二人の子どもが

東方に旅行した

言いつ争っているのを

理由

思うには

孔子東^{とう}に遊^{あそ}ぶ。兩小兒^{りょうせうに}の弁闘^{べんとう}するを見て、その故^{ゆゑ}を問^とふ。一兒^{いちに}曰^{いは}く、「我以^{おも}へらく、日の始めて出^いづる時、

真昼になると

人^{ひと}を去^さること近^{ちか}くして、日中^{ひちゅう}する時遠^{とほ}し。」と。一兒^{いちに}以^もへらく、「日の始めて出^いづるや遠^{とほ}くして、日中^{ひちゅう}する時近^{ぢか}し。」と。

最初の

子ども

大きさ (注2)

(注3)

遠くのもの

近くのもの

一兒^{いちに}曰^{いは}く、「日の初めて出^いづるや、大いさ車蓋^{しゃがい}の如^{ごと}し。日中^{ひちゅう}するに及^{およ}ぶや、則^{すなは}ち盤盂^{ばんう}の如^{ごと}し。此^これ遠^{とほ}き者小^{せう}にして近^{ぢか}き者大^{だい}なる

ではないか

もう一人の

ひんやりとしている

が為^{ため}ならずや。」と。一兒^{いちに}曰^{いは}く、「日の初めて出^いづるや、滄滄^{そうそう}涼涼^{りやうりやう}たり。その日中^{ひちゅう}するに及^{およ}ぶや、湯^{さく}を探^{たづ}るが如^{ごと}し。

此れ

③

き者熱くして

④

き者涼しきが為ならずや。」と。孔子決^{けつ}すること能^{あた}はず。

判断を下すことができなかった

(「列子」による。)

* 一部表記を改めたところがある。

- (注1) 共子 — 孔子のこと。
- (注2) 車蓋 — 馬車の上を覆う傘。
- (注3) 盤盂 — 食器の鉢や碗。

(一) 傍線部分(1)「いはむや」を現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで書きなさい。

(二) 傍線部分(2)「両小児の弁闘するを見て」にしたがって、返り点を正しくつけたものは、次のア、イ、ウのうちどれか。最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、見_二両小児_一弁闘 イ、見_二両小児_一弁闘 ウ、見_二両小児_一弁闘 エ、見_二両小児_一弁闘

(三) 次の【話し合いの様子】は、はるおさんとあきなさんがⅠとⅡの文章を読んだあとに話し合ったときのものである。これを読んで、Aに入る言葉として最も適当なものを、あとのア、イ、ウから一つ選び、その記号を書きなさい。

【話し合いの様子】

はるおさん ⅠとⅡの文章では、どちらも二人の子どもが、自分たちと太陽との距離^{きより}について、それぞれ自分の意見と、その根拠^{こんきよ}を主張している様子が表現されているね。

あきなさん そうだね。「日の出の時の太陽が近く、真昼の太陽が遠い」という意見について、Ⅰの文章では、子どもが感じた気温の違い^{ちが}を根拠に主張していて、Ⅱの文章では、子どもが見た

はるおさん 本当だね。「日の出の時の太陽が遠く、真昼の太陽が近い」という意見については、Ⅰの文章とⅡの文章のどちらも子どもが感じた気温の違いが根拠になっているね。

- ア、太陽の動き イ、太陽の明るさ ウ、太陽の大きさ エ、太陽の方角

(四) ⅠとⅡの文章の①、②、③、④に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次のア、イ、ウ、エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、①—近 ②—遠 ③—近 ④—遠 イ、①—遠 ②—近 ③—近 ④—遠
- ウ、①—近 ②—遠 ③—遠 ④—近 エ、①—遠 ②—近 ③—遠 ④—近

(次のページへ)

5

A中学校では、毎年一月に、同じ地域の小学校六年生を招いて、新入生説明会を行って、その一部を生徒会役員が企画・運営している。次の【話し合いの様子】は、今年度の新入生説明会でどのようなことを行うかについて生徒会役員が話し合ったときのものである。【話し合いの様子】、【資料1】、【資料2】、【資料3】を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十占)

【話し合いの様子】

あかりさん

【資料1】を見てください。私たちは新入生説明会の中の「生徒会より」という三十分間の内容について、企画・運営を行います。昨年度は、中学校生活の一日の様子をスライドショーで紹介しました。今年度の「生徒会より」の企画内容について、【資料2】、【資料3】をもとに考えましょう。

はるとさん

【資料2】を見ると、部活動や文化祭、体育祭についてくわしく知れたかったということがわかりますね。また、説明を聞いているだけの時間が多く、たいくつだったという感想もあるので、参考にしたいですね。

かずやさん

そうですね。【資料3】を見るとⅠとⅡという項目は楽しみにしている人も、不安に思っている人もいることがわかります。また、Ⅰを楽しみにしている人の割合が最も大きいことがわかりますね。

はるとさん

なるほど。でも、文化祭と体育祭を合わせて「学校行事」として考えるとⅠを楽しみにしている人の割合よりも「学校行事」を楽しみにしている人の割合のほうが大きくなりますね。また、ⅡとⅢを不安に思っている人の割合は同じで、考えると七割の六年生が中学校の「学習」に対して不安に思っていることがわかりますね。

あかりさん

二人の話を聞いて、「生徒会より」の時間を今年度の小学校六年生にとって充実したものにするための工夫が必要だと思いました。では、具体的な企画内容について話し合しましょう。

【資料1】●今年度の新入生説明会の日程

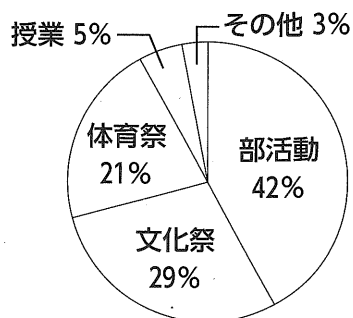
14:00 新入生説明会開始
14:05 あいさつ(校長先生)
14:10 中学校の概要説明(教頭先生)
14:40 「生徒会より」
15:10 新入生説明会終了

【資料2】●昨年度の説明会に参加した小学校六年生の感想

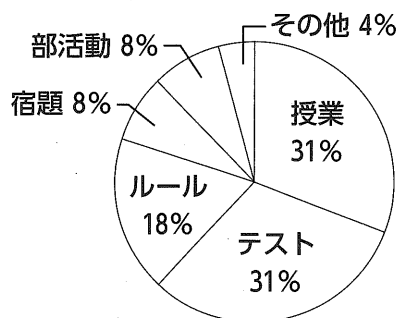
- ・部活動について、どんな部活動があるか、いつ活動するか、などをくわしく知りたかった。
- ・数学や技術など中学校から新しく始まる授業について具体的に知りたかった。
- ・文化祭と体育祭についてもう少しくわしく教えてほしかった。
- ・スライドショーがわかりやすかった。
- ・説明を聞いているだけの時間が多く、たいくつだった。
- ・中学生が実際に活動している様子を見たいと思った。

【資料3】●今年度の小学校六年生に実施したアンケート結果

〈中学校生活で楽しみなこと〉



〈中学校生活で不安なこと〉



(一) 【話し合いの様子】の I、II、III に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、I—I部活動	II—授業	III—テスト	イ、I—I授業	II—部活動	III—テスト
ウ、I—I部活動	II—授業	III—ルール	エ、I—I授業	II—部活動	III—ルール

(二) あかりさんは今年度の新入生説明会の司会を担当するため、司会原稿を作成している。次の の中はあかりさんが考えた司会原稿の一部である。波線部分「開催^{かいさい}なさいます」の言葉の使い方が適切でないと先生から指摘^{してき}されたあかりさんが、波線部分「開催^{かいさい}なさいます」を適切に書き直したものととして最も適当なものを、あとのア～ウから一つ選び、その記号を書きなさい。

ただいまより新入生説明会を開催^{かいさい}なさいます。六年生のみなさん、本日はA中学校に来ていただき、ありがとうございます。

ア、開催いただきます イ、開催くださいます ウ、開催いたします

(三) 【話し合いの様子】の傍線部分「生徒会より」の時間を今年度の小学校六年生にとって充実したものにするための工夫について、あなたの考えを、次の「作文の注意」にしたがって書きなさい。

「作文の注意」

- ① 題名は書かずに本文から書き出さない。
- ② 具体的な企画内容を示し、【資料2】と【資料3】を根拠^{こんきょ}に、「生徒会より」の時間を今年度の小学校六年生にとって充実したものにするための工夫を明確にして書きなさい。
- ③ あなたの考えが的確に伝わるように書きなさい。
- ④ 原稿用紙の使い方にしたがって、全体を百六十字以上二百字以内にまとめなさい。